



この世界には
触手という
魔物がいます



人間の女性を
苗床にして
繁殖すること
だけを考える
下劣な存在です



そんな触手から
人々を守る者



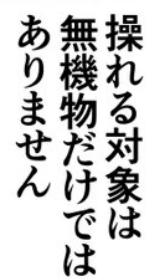
それが私たち
退魔師です

わたくし
うめさき あやせ
梅咲操千も
その二人です

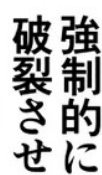
一族が代々
受け継いでいる
「**物体操作**」の
能力を宿しており

掌の家紋で
触れたものを
自在に操る
ことが出来ます

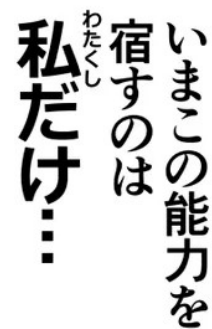




触れた相手の
肉体を内側から
操作し

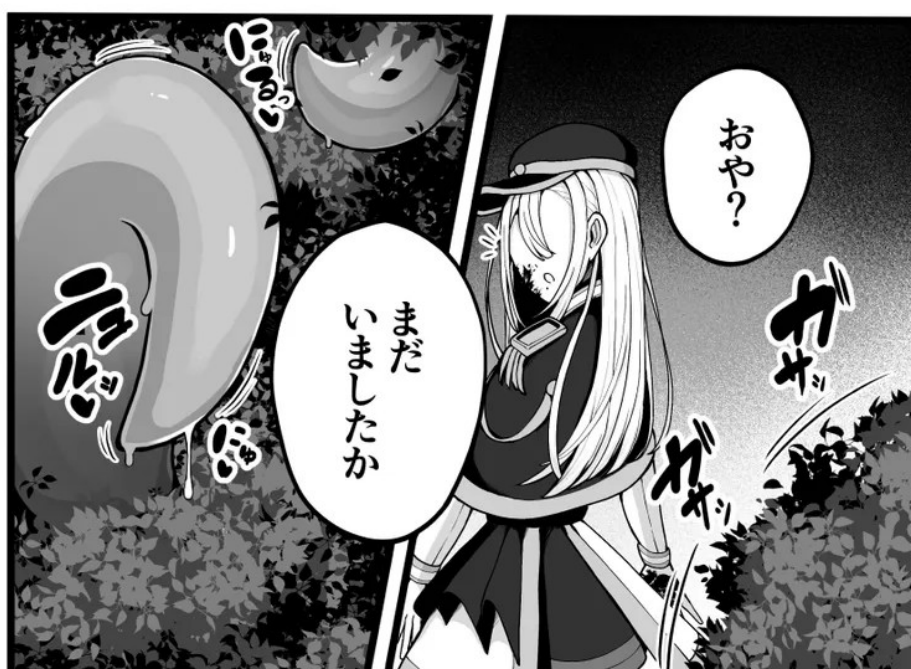


即死させることも可能です



梅咲家の
誇りにかけて

醜い触手どもを
殲滅してみせます！





…は？

なに…
これ…？
身体が…
動かない！



あげ…ま…？

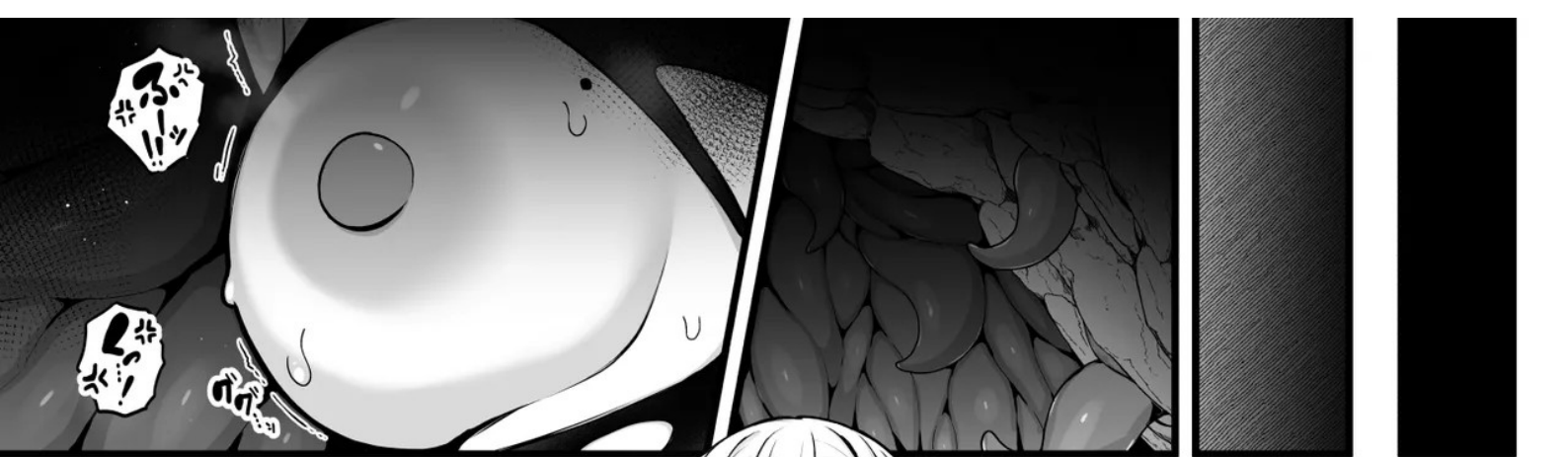


まさか
この血が
原因…！

こんな事例
聞いたことが…

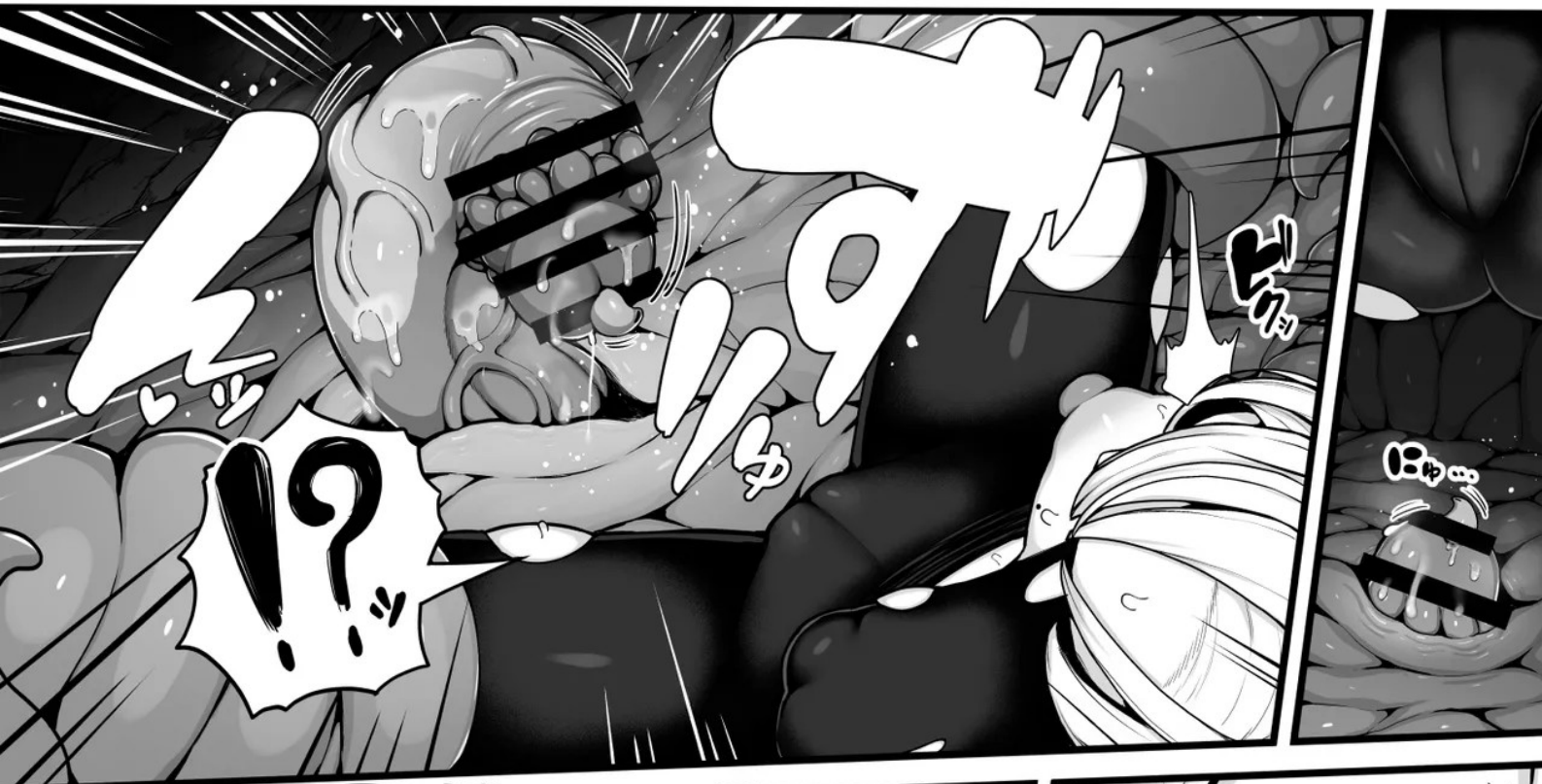
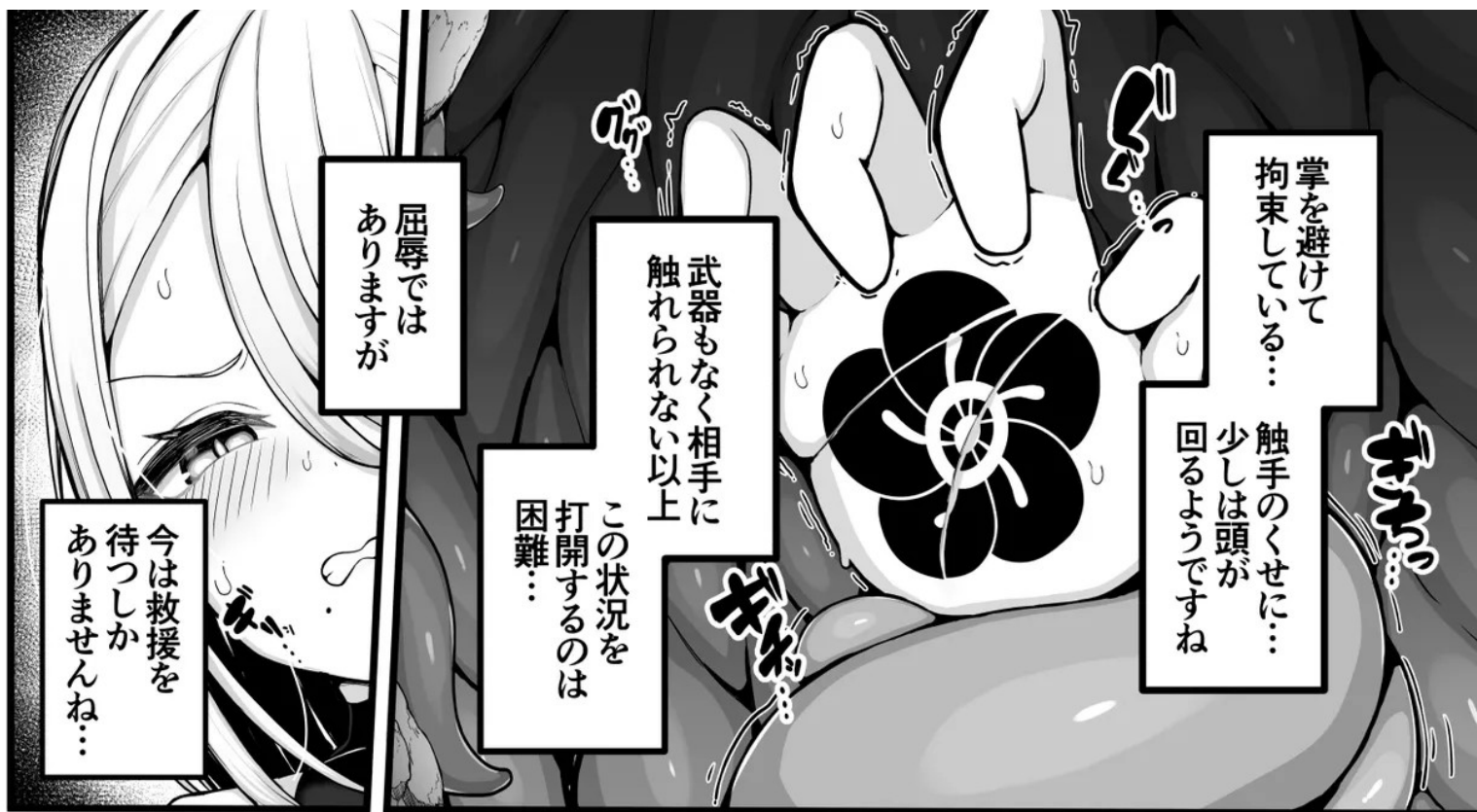


！



触手なんかに
捕まるなんて…

まさか
わたくし
この私が…



最近報告
された新種…！

特殊な精液で
子宮を改造し

触手専用の
繁殖器官に
作り変えるという…

私たち退魔師の
能力は子宮に
宿っている…

それを丸ごと
作り変えてしまう
この個体は…

私たちに
とつての
天敵…！

特定の能力の
遺伝には

母親が同じ能力を
持っている
ことが絶対条件

そして今
「物体操作」を
宿しているのは
私だけ…

その私が
能力を失えば…

梅咲家は
受け継いできた
「物体操作」の
能力を永遠に
喪失すること…







そのお札には
強力な退魔の力が
込められています

そして
私が能力を
解除しない限り

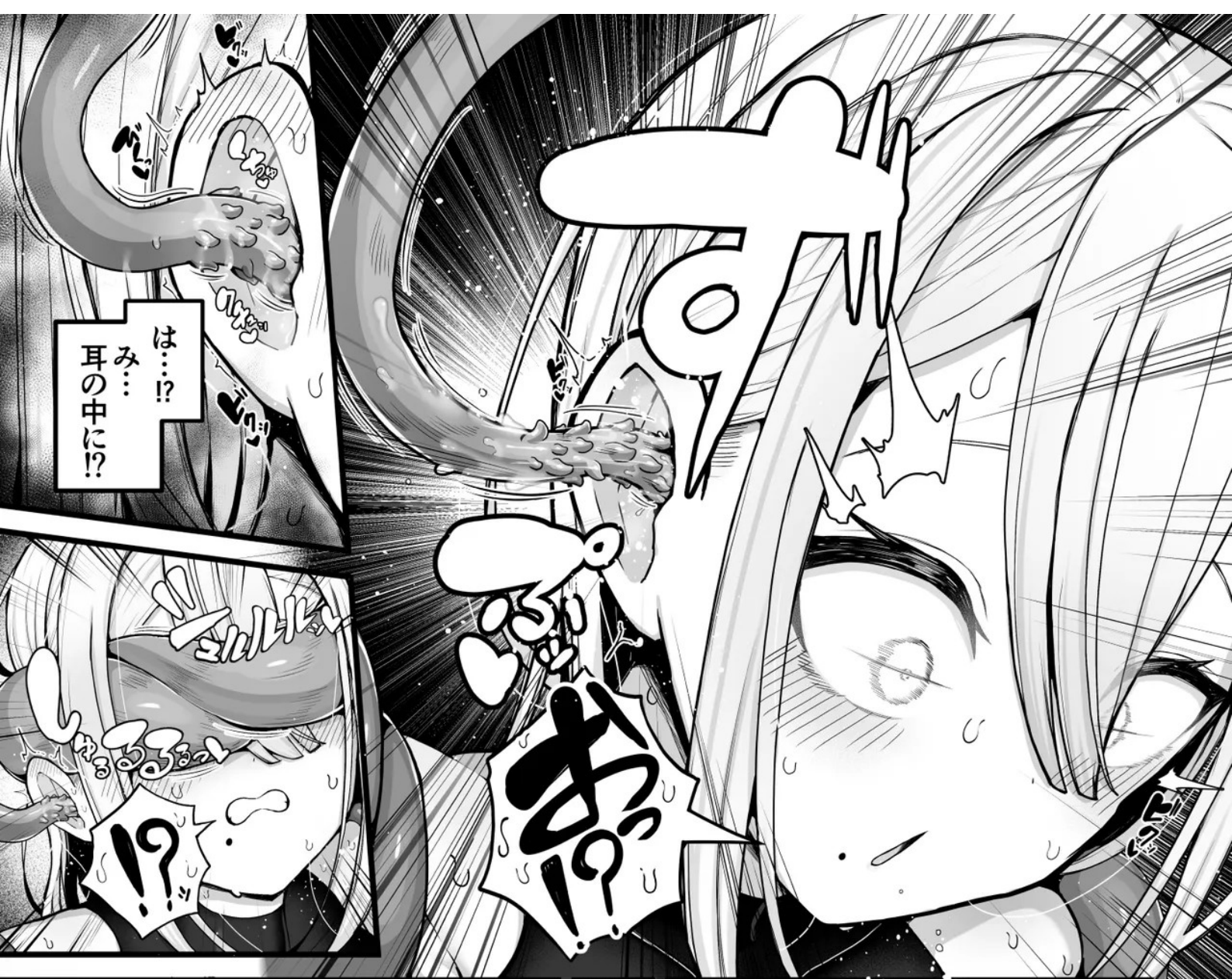
絶対に
剥がすことは
出来ません

私を
触手の
ような

下等生物の
苗床に
出来るなんて

思わない
ことですね

やっ
ぱん
...



視界を
塞いだ!?

触手なんか
一体何が...

目的...で...?



...はあ...

なに...これ

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ... はあ... はあ... はあ... はあ... はあ... はあ... はあ... はあ... はあ...



おなか
子宮の中に...
ナニがいる!?

なに...コレ!?
何なのこれ!?

まさかこの
一瞬で妊娠
させられたの!?

いや…
そんなはずない!

おれに能力を
使っている感覚は
確実にある!

つまり
子宮もおれも
無事ということ…

ならば
これは…

幻…

ち…
ちがう…

幻にしては
感覚が
生々しすぎる!

もしかして
これは…



苗床に
された
人間の...



記憶の
再現...!?



イ…イヤ！
ふざけないで！

私がこんな…
下等生物を産む
なんて絶対に—



なん…で♡

触手が
蠢く度に…♡
気持ち良い波が
全身を巡って♡

下品な
声が…♡
勝手に…♡





それから私は
苗床の記憶を
流し込まれ続け

何度も
出産絶頂を
繰り返しました

小ぶりな触手を
10匹近く連続で
出産したり…

長い触手を
時間を掛けて
出産したりなど…

いずれの
記憶でも私は
情けなく

絶頂を迎えて
しまいました

触手なんかを
産んで絶頂し

下品な喘ぎ声を
漏らしてしまう
羞恥と悔しさ

それ以上に
触手を産む度
感じてしまう

快感と
多幸感

私の心が
じわじわと
この快楽に

染まり始めて
いるのを
感じました

それでも
快楽に屈しない
ように

負け…
ない…♡♡

ま…
また…♡

触手
なんか…♡

残る理性で
必死に
堪えるも

絶対に…♡
負け

出産の
瞬間に

すべて
塗り潰されて
しまいます

全身を巡る
喜びと
気持ちよさに

出産の虜に
なりつつある
事実を

自覚せずには
いられません
でした



しかし…
100回近く出産を
経験した後

触手たちは
一転して
記憶の再生を
中断しました

え…♡

なん…で…♡

屈辱の日々から
解放された
にもかかわらず…

触手を産む
あの快樂が

頭の中から
離れて
くれません

退魔師が
「触手を産みたい」
などと思うのは
最も恥ずべきこと…

そう理解して
いるはずなのに

私の中の
出産願望は

日に日に
増大して
いきました





その後
触手たちは
視界を開放し

現実世界を
見せてきました



そこには肥大化し
母乳が溢れている

私の胸が
映っていました

記憶を
流し込まれる
うちに

本当に妊娠
していると
誤認して
しまったのか

それとも身体は
苗床になるのを
望んでいるのか

いずれにしても
肉体は完全に
屈服して
しまったようです

それだけでは
ありません

触手が
おちんちんを
私のお腹に
擦り付けて
きます

「いつでも孕ませる
準備は出来ている」

まるで私に
そう伝えている
ようでした

それ…♡
だめえ…♡

赤ちゃん…♡
欲しく…♡
なるからあ…♡

もしも
その誘惑を

受け入れて
しまえば

代々受け継いだ
能力も…

退魔師としての
矜持も…
人としての
尊厳も…

全てを
失うのに…

出産の快樂が
恋しくて…♡
恋しくて…♡

「受け入れたら
全てが終わる」

そう理解
しているのに…♡

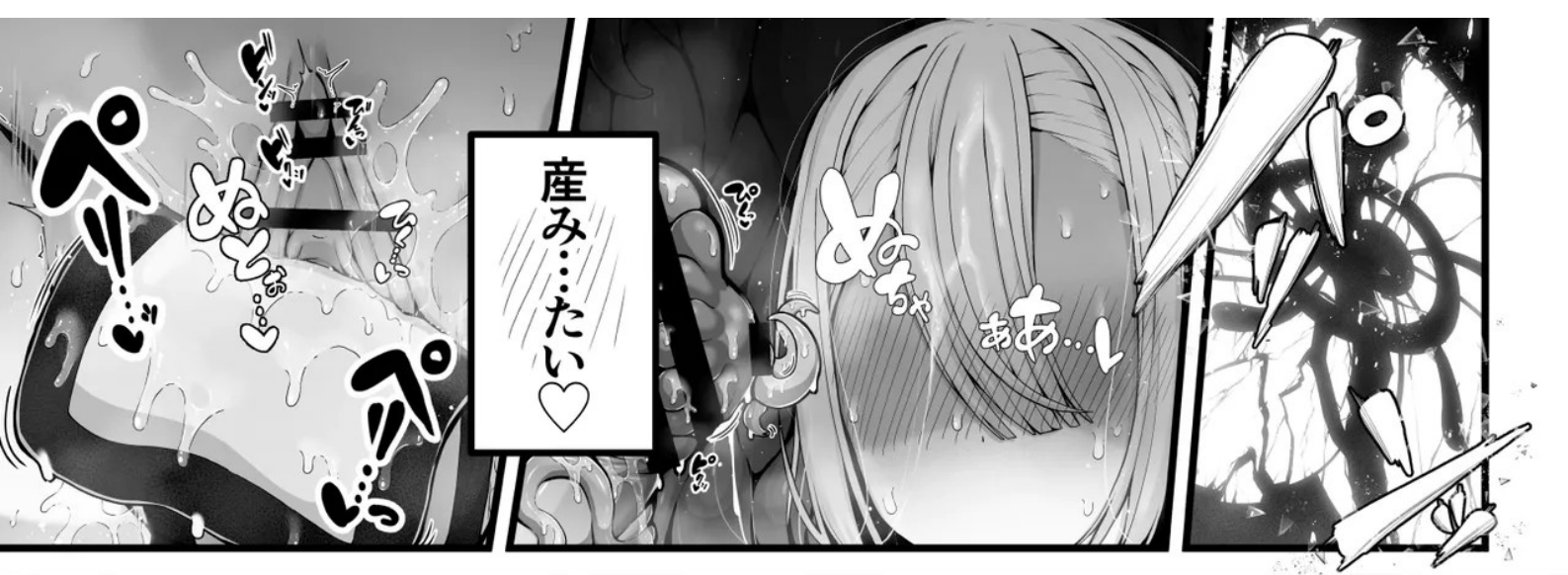
分かっている
はずなのに…♡

身体も…♡

心も…♡

メスのよろこび
出産の快樂に…♡
染まり切った…今…♡

そんな立派な…♡
孕ませの象徴を♡
見せられたら…♡





ああ…♡



こんなにも
愛おしく…♡
感じるなんて♡



かつて
あれほど
見下し

嫌悪していた
触手が…♡







ああ…♡
子宮が…♡
いや私が…♡
作り…替え
られてく…♡



能力すら
持たない…♡



ただの…♡

苗床に…♡





能力も
矜持も
尊厳も

大切なモノが
全部消えて
いくのに...

孕める喜びと
背徳感で...

トびそつなほど
気持ちいい

赤ちゃん
孕ませて

きつて
いっしょに
射精して





私の子宮…
触手専用の…
孕み…袋に…

堕ち…
ちゃった…

おれが…
もう…
動かせない





お腹の中…♡
動いてる♡
蠢いてる♡

記憶なんか
じゃない…♡

私の…♡
本物の
赤ちゃん…♡



き…きた♡

ずっと…♡
待ち望んでた
念願の…♡

出産…♡



まっ…へ♡
もう…少し♡
ゆっくり…♡

ちょっと
で♡
出産ただけで…♡
こんなに…♡

記憶
なんかと…♡

比較に…♡
ならな…♡

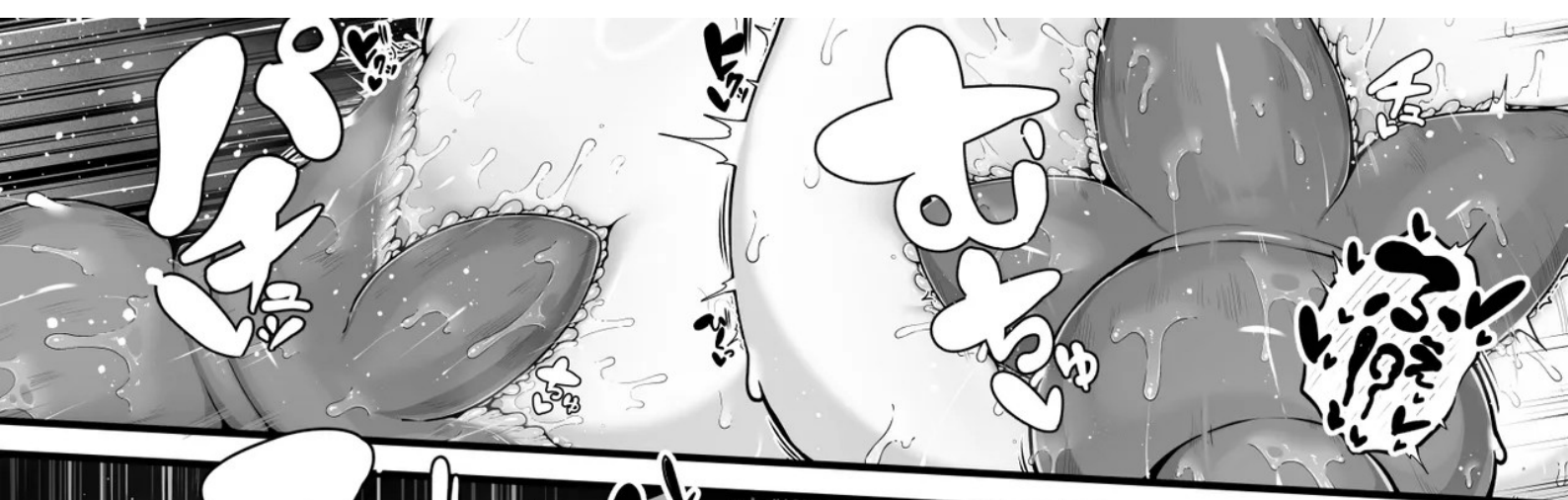




コレ…♡
だめえ…♡

気持ちいいのと…♡
しあわせが…♡
いっぱい溢れて…♡

あたま…♡
真っ白…♡

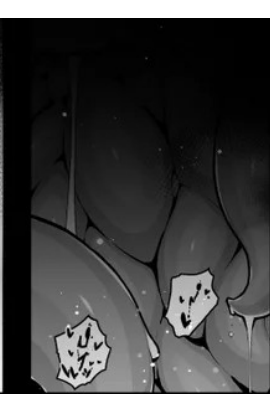






死ぬかと思っ
た♡





私が
触手のママに
なつてから

途方もない時が
過ぎました♡

私は絶えず
触手を
妊娠し続け♡

産んだ触手で
空間が
埋め尽く
されるほど

たくさんの
赤ちゃんを
出産しました♡



白かった
私の髪が

触手の体液で
変色するほど
長い期間

苗床になり
続けた肉体は

異常なほど
敏感になり

たった
一匹出産
するだけで

快感で
失神して
しまいます♡



この毎日に
身体が

耐えられるか
心配でしたが…

ただの
杞憂だった
ようです♡

私の身体が
壊れないように

回復効果のある
精液をいっぱい
飲ませてくれます♡

だから
難しいことを
考えるのは
やめました♡

いまはもう
赤ちゃんを
産むことしか
考えられません♡

触手たちは
私を永久に
飼いつける
つものよう

私の余生は
一生苗床で
確定みたいです♡

ああ…♡
赤ちゃん産むの
しあわせ…♡